

# 香港株式市場フラッシュ

## 株価対策と米中対話再開機運～好業績中国 EV 企業は見直し買い余地

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: [kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp](mailto:kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp)

フィリップ証券株式会社

2023年8月30日号(8月30日作成)

### ”中国の株価対策と米中対話再開の機運“

中国政府が株価対策に本腰を入れるなど、財政・金融にとどまらない動きを示している。中国当局が株式売却時に必要な証券取引印紙税の税率を28日から半減。印紙税率引き下げはリーマン・ショックが起きた2008年以来だ。更に、株式市場の需給悪化要因となる新規上場を段階的に抑制するほか、創業者など大株主による自社株の売却も制限するとした。

投資家心理を冷ややす大きな要因となり得る「米中分断リスク」に対しても、米レモンド商務長官が訪中して李強首相と会談。経済分野で米中の対話再開の機運がみられた。レモンド長官はバイデン政権が中国経済の切り離し「デカップリング」を望んでいないこと、李強首相は経済問題を政治や安全保障の側面で捉えることが世界経済に悲惨な影響を与えると強調した。

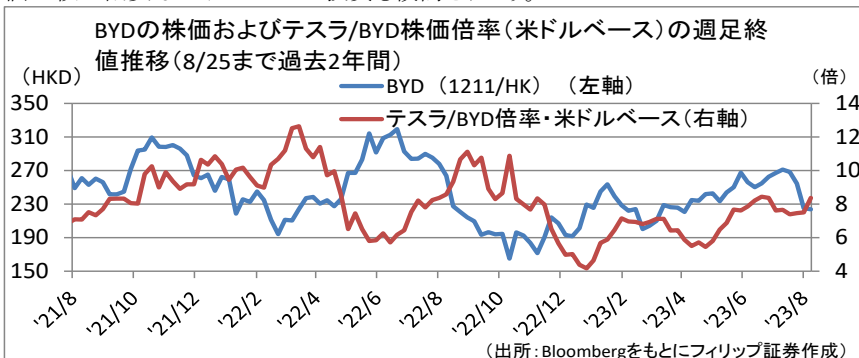
その背景には以下のような事情も垣間見える。グローバル投資資金の中国からの離脱が加速することで、中国当局が通貨防衛のため米国債を売却して人民元を買い支える必要が出てくるだろう。そうすると、インフレ率の伸び減速で金融引締め最終局面に入ったと市場から見なされている米国の金融市場に対し、名目長期金利(および期待インフレ率を差し引いた実質長期金利)の上昇をもたらし、景気と株価への悪影響が懸念されることになる。米バイデン政権も米国債を中国に握られているというアキレス腱を抱えており、米中は元々相互依存の関係なのだとさえ言えない。

### ”比亞迪[BYD]の1-6月期は好業績“

このような動きが進むとすれば、売られ過ぎの中国株への見直しの機運も出てくる可能性もあろう。中国の電気自動車(EV)大手の**比亞迪[BYD](1211 香港)**が28日、2023年1-6月期決算を発表。売上高が前年同期比73%増の2601億元、純利益が同3倍の109億元と好調な内容だった。EVが同91%増の61万台、プラグインハイブリッド(PHV)が同2倍の63万台と、新エネルギー車(NEV)が大きく伸びた。同社事業の売上構成比で73%を占める自動車関連事業は、粗利益率が同4.4ポイント上昇の20.7%と改善。原材料価格の下落も利益率上昇に寄与している。EVのリチウムイオン電池の電極材料としてリチウムの資源確保が課題とされるなか、中国は**ガンフォンリチウム(1772 香港)**や**天齊(ティエンチー)リチウム(002466 深セン)**といった有力なリチウム生産企業があり、BYDにとっては有利に働こう。

ベトナム最大の財閥ビンググループの自動車産業部門を担うビンファスト(VFS)が15日、米ナスダック市場に新規上場。29日終値の時価総額は1067億USDとBYD(約960億USD)を上回っている。ビンググループの創業者が99.69%の株式を保有と流通株が少ない点はあるものの、2022年のEV販売台数2万台の企業よりも低い時価総額となるのは業績面からは説明がつかない面がある。この辺りの価格の歪みもいずれは解消されよう。

また、同社の競合は米テスラ(TSLA)と言うべきだろう。リチウムイオン電池の正極材がニッケル・コバルト・マンガン酸リチウムの「三元系」から、コバルト・ニッケル不使用の「リン酸鉄系」のリチウムへとシフトが進む中で、低価格EVの需要が強い中国で覇権を握る企業がグローバルでも優位に立つ可能性があるだろう。テスラとの株価比較で割安なタイミングでの投資も検討されよう。



### ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全94銘柄)における終値の昨年月末来騰落率

前回基準日: 20230815 基準日: 20230829

順位	2022年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	理想汽車	110.3	1
2	小鵬汽車	93.7	2
3	中国石油天然気 [ベトロチャイナ]	65.8	3
4	網易 [ネットイース]	44.1	4
5	中国海洋石油 [CNOOC]	39.6	5
6	联想集团 [レノボ・グループ]	34.8	8
7	中国移動 [チャイナモバイル]	32.0	6
8	比亞迪電子(国際) [BYDエレクトロニック]	30.9	15
9	HSBCホールディングス	27.4	7
10	中国石油化工 [シノペック]	25.9	12

順位	2022年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
94	碧桂園控股 [カントリー・ガーデン・ホールディングス]	-65.9	94
93	CG SERVICES (碧桂園服務)	-50.5	93
92	万国数拠服務 [GDSホールディングス]	-43.9	92
91	李寧[リーニン]	-42.7	89
90	Ming Yuan Cloud Group Holdin (明源雲)	-40.7	90
89	新奥能源控股[ENNIナジー・ホールディングス]	-39.6	67
88	JDドットコム	-38.4	88
87	JD Health International Inc (京東健康)	-37.4	83
86	中升控股 [フォンサン・グループ・ホールディングス]	-36.0	91
85	ピリビリ	-35.8	87

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

### 【2023年8月中国主要経済指標】

- 8月21日(月)
  - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.55%、結果**3.45%**
  - ・5年ローン・プライムレート: 前回4.20%、結果**4.20%**
- 8月27日(日)
  - ・1-7月工業利益: 前回▲16.8%、結果**▲15.5%**
- 8月31日(木)
  - ・8月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.3
  - ・8月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回51.5
- 9月1日(金)
  - ・8月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.2
- 9月5日(火)
  - ・8月(財新)サービス部門PMI: 前回54.1
- 9月7日(木)
  - ・8月外貨準備高: 前回3.20兆USD
  - ・8月貿易収支: 前回+806.0億USD
  - ・8月輸出<前年同月比>: 前回▲14.5%
  - ・8月輸入<前年同月比>: 前回▲12.4%
- 9月9日(土)
  - ・8月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回▲0.3%
  - ・8月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲4.4%
- 9月9日(土)-15日(金)
  - ・8月資金調達総額: 前回5.28兆元
  - ・8月新規人民元建て融資: 前回3.46兆元
  - ・8月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+10.7%
- 9月15日(金)
  - ・8月小売売上高<前年同月比>: 前回+2.5%
  - ・8月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+3.7%
  - ・1-8月固定資産投資<前年同月比>: 前回+3.4%
  - ・1-8月不動産投資<前年同月比>: 前回▲8.5%
  - ・8月調査失業率: 前回5.3%
  - ・8月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.23%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。